

平成30年度 第1回 西宮市立こども未来センター運営審議会 議事録

平成30年7月12日(木) 14時00分～16時00分

開催場所： こども未来センター4階 会議室

出席者：【委員】 井澤 信三、新澤 伸子、酒井 修一郎、吉田 知英、田村 三佳子
上野 武利、古川 勝、高瀬 京子、塘 綾子

【事務局】 こども支援局長 佐竹、こども未来部長 岩田、学校教育部長 佐々木
こども未来部参事 太田、こども未来部参事兼特別支援教育課長 栗屋
こども未来部参事兼地域・学校支援課係長 繁田
こども未来部診療事業課長 野村、同係長 谷口、斎藤、家塚、
同副主査 木村、同主任作業療法士 山下
こども未来部発達支援課長 小田、同係長 穴山、樋口、藤長
こども未来部地域・学校支援課長 山本、同係長 原田、齊藤

- 次 第： 議事 (1) 会長及び副会長の選任について
(2) 西宮市立こども未来センターの概要について
(3) 平成29年度各種事業の実績について
(4) 平成30年度主要な事業について

開 会

○ 開会

局長挨拶の後、委嘱状の交付と配布資料の確認、委員の自己紹介、事務局職員の紹介。

○ 議事

- ・ 議事(1)『会長と副会長の選任』の後、会長挨拶。
- ・ 会議の公開と議事録の公表について、傍聴希望者が1名居ることについて事務局より説明。傍聴について許可されたため、傍聴者入室。

【会長】

それでは、本日の次第に従い「議事(2)西宮市立こども未来センターの概要について及び議事(3)平成29年度各種事業の実績について」に関して、事務局から報告をお願いします。

【事務局】

スライド及び「資料1」資料集「P.4 平成29年度こども未来センター 実績について」に基づき、こども未来センターの概要及び平成29年度の実績等について報告。

【委員】

『通級指導教室』と『居場所サポーター』の違いは何か。

【事務局】

居場所サポーターは学校からの依頼を受けて、相談室などの別室で学習や心の支援をするため派遣されるもの。通級指導教室は、拠点校や巡回校に設置された通級学級に通い、自立活動等を中心とした学びを行うもの。

【委員】

通級指導教室が足りないからそれを補完しているのではなく、全く別のことということか。

【事務局】

その通り。

【委員】

居場所サポーター事業は今後とも拡充していくのか。

【事務局】

どの学校からでも依頼があれば派遣をしていきたいと考えている。学校によって事情が違うが、別室が用意できる学校に対して派遣をしていくことにはなる。

【委員】

学校によって取組が違うということになると、主体的な学校とそうではない学校によって居場所サポーターを派遣する・しないが生まれてしまうのではないか。公平な形で運用してほしい。

【事務局】

主体的かどうかという観点よりも、あくまで学校の実情に応じて派遣しているものである。

【会長】

試行段階ではあるが、今年から高校においても通級指導教室を導入する動きがある。

【委員】

こども未来センターの役割について、こどもだけではなく保護者に対しても指導していくことがかなり重要になってきている。わかば園は母子通園となっているが、わかば園に行きたくても働いていて通えない親がいる。この状況について、果たして『こどもが大事』か、『大人が大事』なのか、何の状況を是とするか。未来センターとしてもう一步踏み込んだ『西宮市のこどもがどうすれば幸せになるか』という、子供を見る側と育てる側のビジョン・役割分担を考えるべきではないか。今は『こどもは誰かが見てくれる』という流れになっているとすると、わかば園が今後も母子通園を貫くならば、そういった働く人たちに対する方に理解を求める方策・システムを考えていくことも必要ではないか。

【会長】

一般的には子供は親が育てるものだが、一方で親によっては他の方にお任せしているという現状もあるということか。

【委員】

例えば養護学校が終わった後に放課後デイサービスに預けていると、親が見なくても他の人が見てくれる。その間、親は個人の時間が持て、子供にも人権があるように親にも人権があるというか、社会全体で子供をケアしていくという考え方に立つのか、それともある時点までは家庭で子供を見ていてくださいと整理するのか。つまりは矛盾しない大まかな方向性は持つておくべきではないか。未来センターは、働いていてわかば園に入れない親は一体どうしたら良いのかという命題を今後突きつけられるのではないか。

【事務局】

現場でも同様を感じている。発達支援課では「わかば園」と「北山学園」を管理運営しているが、単独通園の北山学園の方が入園希望は多い。今後はわかば園と北山学園との兼ね合いで方向性を検討していきたいと考えている。

【委員】

幼稚園の立場から見ると全然考え方が違うなと感じる。幼稚園・保育園を選択する親の多くは少しでも集団保育で多くの刺激を受けてほしいと考えている。親も一人ではどう子育てしてよいか分からず悩んでいるため、我々はそれを支えたいと思っている。職員から見るとちょっと発達がゆっくり目で支援の必要な子供だと感じて、親の気持ちがあってそれを伝えることが難しいこともある。早くきちんとした療育を受ければ子供は伸びることは分かっているため、関係機関と連携しながら子供を育てていきたいと考えているし、

社会・地域で子供を育てていくことは本当に大事なことだ。

【委員】

普通の子供でも誰かに見てもらって働くということが日本では標準化している世の中で、手がかかり、支援が必要な子供を持つ親は正直な所、預けて働きたいと思っても、子供のことを考えると難しい面もある。子供がスムーズに学校生活を送れずに学校でトラブルを起こす等もあり、毎日学校に行く必要もある。その一方でそのような状況に目をつぶって、学校や専門家等に任せ、自分は働くということを選択する親も多くなっている。わかば園のキーワードになっている「たつまき」は非常に大事で、これをしっかり頭に入れて、最低でも幼稚園に上がるまでにしっかり親子の絆を作った上で集団・社会に送り出すということがとても大切であるが、これが少しおざなりになっている親も多いと感じる。こども未来センターとしてそういったことを親にしっかり伝えていく役割も担ってほしい。また、北山学園に通わせるといっても、発達が遅れている我が子を長い時間バスに乗せ、山奥に通わせるということが親の心の面での第一ハードルになっている。それをクリアすることで子供たちにとって明るい未来が開けるといえることをもっと伝えてほしいし、そのハードルが高すぎるということであれば、もっと地域の幼稚園・小学校に特別支援に対する理解を深めるよう働きかけてもらうよう、その中心を担っていただきたい。

【委員】

親を育てるといふ観点でも児童発達支援、放課後等デイサービスの役割は非常に大きくなっている。一方で送迎の有無や預かり時間といった子供の成長以外の観点で施設を選ぶ親もいる。未来センターにおいて、平成28年度は放課後等デイサービスの職員に対する研修があったが、平成29年度は実施されていなかった。未来センターが全児童をみるのはもちろん無理なので、ぜひ放課後等デイサービスや児童発達支援といった事業所向けの研修も充実させてほしい。

【会長】

世の中の動きとして保護者が働くことを支援することと、保護者を育てていくことの双方とも重要であるが、未来センターだけで担うことは難しい。関係機関と連携してやっていくことも必要である。

【委員】

平成29年度新規事業について、今後どうしていくか、またその評価について聞かせてほしい。

【事務局】

ペアレント・プログラムについては子供の行動の理解を深めるためワークショップ形式で実施しているが、他の親とのやり取りをする中での横のつながりが広がっている。今年度さらに拡充していきたい。

ほっこり広場について、診療待ち期間にある子供に対して、子供を自由に遊ばせる中で親もゆっくり話ができる場を提供している。子供も親も安心して来ることができる場所になっており、他の人に気を遣わずに安心して過ごせると大変好評であり、今後とも続けていきたい。

わかば園退園児アウトリーチについて、地域の私立幼稚園・保育所に出向き、情報共有をするとともに、実際に現場で子供の様子を確認し、現場の先生と支援の情報のすり合わせを行っている。わかば園の職員にとっても地域の保育園・幼稚園の生活を目にすることで良い刺激になっている。今後とも実施していきたい。

【委員】

未来センターも3年目となったが、事業も拡大し、予算・スタッフも増となっている。これを今後どのように評価していくのか。いわゆる実績の数値・人数という客観的指標は分かりやすいが、そろそろ『中身』の分析もこれから必要なのではないか。評価はいわゆるエピソード的な主観的な記述になることが多く、今後どう『客観的』な評価をしていくのか。

【事務局】

業務が拡大していくなかで実績の数字は増えたということは一つの成果だとは考えている。一方で『質』はどうかについての評価はできていないのが現状である。今後は自己評価だけでなく、第三者評価そしてこのような審議会での評価についても取り組んでいきたい。

【委員】

親切だけでは施策はだめ。民生委員は『地域で見守ってください』と言われてもいきなり飛び込んでいく訳ではなく、日ごろからの声掛けや地域での関わりを継続していく中でのある種の信頼感によって地域の見守りは生まれるもの。最近の子育てはちょっと甘えているのではないかと感じることもある。西宮市の施策は非常に親切だが、『思いやり』に欠けている。この施策は良いですよと勧められても結局条件が合わず使えないものが多すぎる。西宮市は住民が複雑化してきていることをもう少し考慮すべき。最近、若い家庭は働きに出るため、色んな地域の団体の役員はなり手がいない。子育て・家庭で一生懸命なので、それ以外はやりませんという若い人も多い。不登校の子供について昔は先輩・後輩で声を掛け合って、先生と一緒に子ども同士で不登校の子どもが通学できるように働きかけていた。今は子どもの形態が様々で、問題点についても掘り下げて考えていく必要がある。

と感じている。

【委員】

成果の評価について、例えば相談件数が減ったからといって必ずしもそれが悪いわけではなく、その分地域に相談できる場所が増えたという見方もできる訳で、質の評価という観点での手法をもうすこし考えてほしい。また、ネットワーク作りの評価についても、現在示されている審議会資料の表は非常に数字の羅列になっている。資料にも質の内容も記載していくべきではないか。また、ほっこり広場について、初診前のみを対象としているが、そうすると初診が終わってから次の診療まで4か月位待ちがある。特に発達障害の診断は小学校など大きくなってから受けることもあり、その時期には外来保育も使えないため、その辺のアプローチについても考えてほしい。

【事務局】

ほっこり広場は診察を受けた後でも、次の療育が始まるまでは来てもらっている。また、療育が始まってからも集団に入るのが難しい等、必要に応じて継続してほっこり広場に来てもらう等の柔軟な対応を行い、切れ目の無い対応をしている。

【委員】

診療の待ち時間の中に、こちらから「状況はいかがですか」等、ちょっとした電話連絡や声掛けでも救われる人が多いと思う。

【事務局】

支援は『相談』から始まるということを職員一同よく認識し、相談員も頃合いを見計らって保護者に電話をかける、診察・リハビリがある日にはタイミングを見て顔を出す等、状況を確認する等のフォローは継続して行っている。

【委員】

未来センターが3年経過しているが、その時間軸（縦軸）の実績が見えていない。未来センターは18歳までを対象としているが、果たして15歳の子供が『初診』として未来センターをどれだけ利用しているのか。つまり、年代による横軸の統計を取り、それを示していかないと、利用者側は、18歳までと聞いたがこの年齢で本当にセンターを利用して良いものか、と迷ってしまうのではないかと。もっと『幅広い受け皿』になっていることを示し、気軽に利用できる雰囲気づくりを進めてほしい。

【委員】

保護者側からするともっと相談したいと思っても、なかなかできないというのが現

状。「こども未来センター」とはまさにその名前の通り、シンボルである。保護者はものすごくセンターに期待しているが、その一方で未来センターだけでは出来ないことも多いことも実感している。今後とも関係機関との連携・アウトリーチの強化が肝要である。

【会長】

それでは、次の「議事（４）平成30年度主要な事業について」に関して、事務局から報告をお願いします。

【事務局】

<資料1>資料集「P.5～10 平成30年度 主要な事業について」に基づき、こども未来センターの平成30年度の主な事業や前年度からの変更点等について報告。

【副会長】

今後の方向性について、3年経って質的な評価が必要ではないか。こども未来センターはとても画期的な仕組みではあるが、自己満足になっていないか。他府県や他市でこれだけ人材・予算を集約してやっている所は他にないが、ここにたどりつけない人がどれくらいいるのか、その要因の分析も必要ではないか。もちろんまだ3年であり、これで良かったといった評価がなかなか見えるような段階ではないとも感じている。

市民の方がどのようなニーズを持っているか、例えば障害福祉推進計画を作成する際には市民にアンケートを実施しているが、その調査結果の概要を見ると、ここには児童に関する市民のニーズがあまり出ていないようにも見受けられる。

【委員】

そのアンケートの母集団の人には、こども未来センターが認知されていないためである。やはり、こども未来センターは実績を作っていないといけない。当然、ハコモノだけにならないようにしていかなければならないというのは共通認識である。

【副会長】

児童について障害福祉計画は別途作成しないといけないため、児童に関するアンケートは別途しないといけないのではないか。

【委員】

児童に関する事項は障害福祉計画にまとめても良いことになっており、西宮市ではそのように作成した経緯がある。むしろ本計画は成人部門に関するものが中心になっており、児童部門とのバランスが悪い状況になってしまっている。

【副会長】

例えば大阪ではサービスを利用する側から発信していくことが多く見受けられ、保護者会のアンケート結果等をこのような審議会の場に提示されるようなことも多い。こども未来センターはこれだけの人材・予算も投入しているのだからこそ、出来ることがあるはず。利用者や保護者会等からの生の声が返ってくるようなアンケートを取るなど、当事者の声を拾っていくことで、そこから今後の方向性が見えてくることも多いのではと感じている。

【委員】

各機関に対してアウトリーチを充実させていることは実感できるものの、果たしてアウトリーチに行った先の関係機関はちゃんと動いてくれているのか。せっかくアウトリーチに来てもらっても担当の先生が動いてくれていないという声を非常に多く耳にする。不登校の子供に関しても、あすなろ学級に通える子はまだ良いがそれに漏れてしまっている子もいる。特別支援学級に在籍しているが学校に長期間通えていない子が、宙ぶらりんのまま何年も過ごしている現実がある。解決策をしっかりと考えてほしい。未来センターとして、アウトリーチ先がちゃんと動いてくれたのか確認するとともに、アウトリーチ先が実際に動き出せるような案をしっかりと考えてほしい。関係機関としっかり連携しながら、宙ぶらりんの子がしっかりと動きだせるような案を提供していただき、実践していただけるような環境整備についても広げていってほしい。

○ 閉会

- ・事務局より、『西宮市子ども・子育て支援プラン』及び『西宮市障害福祉推進計画』の概要と次回審議会の開催時期等について説明。

閉 会